

Mentalizing の発達 : Developmental Cybernetics の可能性

板倉 昭二
京都大学 文学研究科

ヒトは極めて社会的な生き物である。そうした特徴は、生後すぐにも現われる。誕生直後の新生児であっても、顔様の刺激を長く見たり、ヒトの声を好んだり、生物学的な動きを好んで長く見たりすることが知られている。すなわち、ヒト乳児は、ヒトの発するシグナルに極めて高い感受性を持っているのである。他者に心的状態を認めることを、広義に「メンタライジング(mentalizing)」と定義する。ヒトはいつから他者に心をもとめるようになるのだろうか。また、それは、ヒトという対象に対してだけであろうか。本講演では、メンタライジングの発達 (図 1 参照) を概略するとともに、ヒト以外のエージェントを用いた関連実験を報告する。また、新しい研究領域としての Developmental Cybernetics も紹介する。

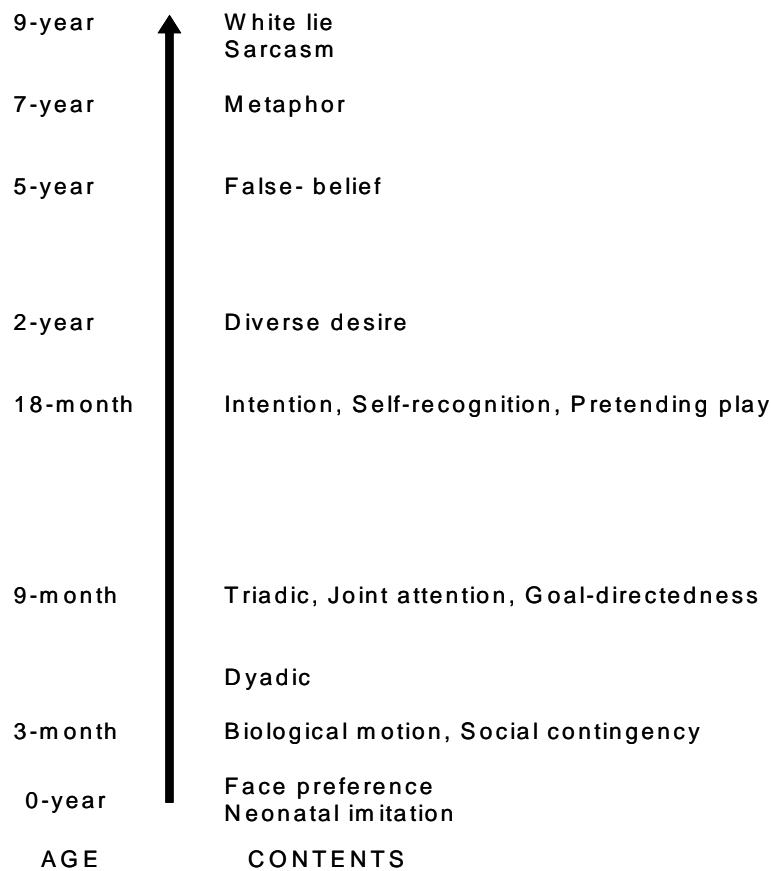


Fig. 1 Outline of development of mentalizing